

## イネごま葉枯病（病原菌：*Cochliobolus miyabeanus*）

### ○ 被害と発生生態

糸状菌の病気である。苗では地際から葉鞘全体が褐変し、葉に小斑点を形成する。苗の生育は悪く、不揃いになる。本田では生育の中後期から発生が目立つようになる。葉の病斑は黒褐色楕円形で周囲に黄色の変色部を伴うことがある。穂軸、枝梗では黒褐色条斑ができ、後に全体が褐変・枯死して、穂枯れとなる。もみでは出穂直後に侵されると暗褐色で周縁やや不鮮明な楕円形病斑を生じ、激しい場合にはもみ全面が暗紫褐変する。

種もみ及び被害わらで越年する。気温が上昇し、降雨にあうと被害わら上に分生子が形成され、これが本田発病の第一次伝染源となる。葉の病斑上に形成された分生子が飛散して穂を侵す。生育後半の肥料切れは発病を助長し、特に秋落田での発病が激しい。

### ○ 防除方法

#### （ア）耕種・物理的防除

- ・被害わらを除去する。
- ・堆肥等の有機質肥料や土壌改良資材を施用する。深耕や客土により土壌改良に努める。
- ・肥料切れにならないよう緩効性肥料等の施用や適切な追肥の施用を行う。

#### （イ）薬剤防除

- ・種子伝染を防ぐため、種子消毒を行う。
- ・農薬散布は穂ばらみから傾穂期に穂に対して散布を行う。
- ・穂いもちとの同時防除を行う。



苗での発病



本田での発病



激発ほ場（止葉枯死、穂枯れ）



葉ともみの病徴